
No.1



Letter for Members

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jpds/>

発行人 田中久敏 編集 広報委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (財) 口腔保健協会
TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

[表紙](#) [P.1](#) [P.2](#) [P.3](#)

学会誌が変わります

編集委員会 委員長 古谷野 潔

日本補綴歯科学会誌が変わります。その主な骨子は以下の通りです。ただし、いずれも実施に向け現在検討中であり、準備が整ったらその時点で投稿規定、投稿の手引きの改訂とともに実施する予定です。

1. 査読方法について

- ・査読基準の査読者間での意志統一をはかる。
- ・査読者をあらかじめ選定し固定する。また、その氏名を補綴誌に掲載する。
- ・査読者の専門分野を考慮する。また、査読者に理工学、生理学、病理学など他学会の研究者を加える。
- ・より具体的な査読基準、査読マニュアルを作成する。
- ・編集委員以外の2名の査読者に査読を依頼する(現行1名)。
- ・統計コンサルタントを依頼する。

以上の査読方法の改善に伴い、査読をより適正に行い、補綴誌のクオリティを高めていきたいと考えています。

すなわち、今後は「返却」となる論文もあることと思いますが、ご協力の程宜しくお願いします。

2. 査読期間について

査読期間の短縮のために、投稿締め切り日を廃止します。

すなわち、現行の偶数月の1日の原稿締め切り日を撤廃し、投稿があったら直ちに査読作業を開始することを検討しています。



ネットワークコンピュータに 何が出来るか

広報委員 小林 博

1) 第五世代の通信手段

手紙、電信、電話、ファクシミリ(FAX)はそれぞれ便利さや用途の違った通信の手段です。しかしそれぞれの有用性は、使ってみなければ実感にくい面が多く存在します(たとえばFAXの有用性)。同じことが電子メール、WWWに代表されるいわゆるインターネットについてもいえます。しかしながら、特徴を並べてみますと、自分の好きな時間に利用できる、国境が無い、不特定多数に情報を発信可能である、情報量が膨大である(ゴミも多いが)、記録性が高い、単一の情報記録を多数に伝達できる、等が挙げられます。特に最初の時間無拘束、無国境は研究者にとっては代えがたい利点があります。

2) 携帯図書館

その莫大な情報量と、記録性を利用すれば、あなたは資料を机に積みあげずに執筆できるようになるかもしれません。事実、公開資料については、世界中の情報が(探し方さえ分かれば)ネットワークからすぐに探し出せます。

自分の資料もネットワークにつながったコンピュータに記録しておけば、仕事場でも、自宅でも、旅行先でも参照可能です。皆さんが、手元においておきたいが、置き場に困る学術雑誌も、電子情報として保存されれば自分で保存しなくてもよくなるでしょう。

3) 好きな情報を必要なときに

情報が必要になったときに、書類の山から掘り出す必要はなくなるので



face
to
face

また随時、書面会議を行うなど、査読編集作業の見直しをすすめ、投稿から掲載までの期間をなるべく短くします。

3. 論文の掲載順序について

現状は論文の補綴誌への掲載が投稿順となっていますが、これを研究内容を考慮し、類似した研究内容の論文をまとめて掲載するように改めます。長期的には、補綴誌の構成についても見直し、その中で論文の掲載順序についても検討したいと思います。

その他にも、症例論文の奨励、英文誌の発行、さらにはオンラインジャーナル化など、多くの長期的課題もあります。今後これらについても検討していく予定です。

会員諸氏からのご意見をお待ちしています。

「プッシュ型」と呼ばれる情報サービスを利用すると、必要な最新の情報が発生した時点(たとえば特定の雑誌の最新の論文発表)で向こうから電子メールで連絡してくれます。有能な秘書が、仕事の邪魔をせずに働いてくれるようなものです。

4) 情報発信

ネットワーク上の学会が開催されるように、情報の発信手段としても重要です。特に個人が世界に、情報を安価に発信できるということの意味は大きなものがあります。世界の片隅の一人の意見が、共感を得れば、またたく間に世界を動かすのです。

これは人類の持った新しい文化のひとつとって過言ではないでしょう。日本補綴歯科学会をそこに参加させたいと思っています。